

ポスターディスカッション テーマ指定演題募集のご案内

第 28 回日本救急看護学会学術集会

このたび、第 28 回日本救急看護学会学術集会（2026 年 11 月・岐阜開催）において、「テーマ指定演題」のテーマを公開いたします。こちらは、ポスターディスカッションの「**テーマ指定演題**」募集になります。

本企画は、通常的一般演題に加えてテーマ指定演題の枠を設け、下記の趣旨に基づき広く演題を募集するものです。募集する演題は、**実践報告、活動報告、活動実績**で、話題提供の型にはまらない自由な発表スタイルで行えます。

現在、救急看護領域において共通する課題や関連する話題に対し、各施設においてそれぞれ独自の取り組みが行われています。これらの取り組みをテーマごとに集約し、一定の時間を設けて対面でのディスカッションを行います。

本企画は、救急看護実践に関連して先駆的に行われている重要かつ実践的な活動を共有し、ディスカッションを通して参加者相互の知見を深めるとともに、実践に即した学術的交流の場を創出することを目的としています。

なお、**演題募集の開始時期は一般演題と同様**です。本演題のオンデマンド配信はありません。

** テーマ指定演題の目的と特徴 **

看護実践現場や施設での工夫（例：システム、環境、組織作りなど）の紹介、実践報告、活動報告、救急外来利用者への事例報告、救急領域に活かすことができる取り組み、教育紹介、等を歓迎します！

演題分類

* 演題登録は、アルファベットの項目で記載したテーマに該当する演題分類 1～5 より選択してください。

1 救急外来、どうしているシリーズ

- a. どうしている？ オーバーナイトベッド・くだり搬送
- b. どうしている？ 救急外来の応援・支援体制
- c. どうしている？ 救急外来の帰宅支援

2 我が施設シリーズ

- a. 我が施設の救急外来・ER（ED）
- b. 我が施設の院内トリアージ制度

- c. どうしている？ RRT と蘇生バッグ 救急物品と医薬品の管理の工夫
- d. どうしている？ 院内急変時の気管挿管への対応（麻薬管理・毒薬管理）
- e. 我が施設の院内急変教育
- f. 我が施設のドクターカー・ドクターヘリ
- g. 我が施設の DMAT 活動
- h. 我が施設の救命救急センター・病棟の退院支援

3 経験・困難事象

- a. マイナー外傷（創傷処置）の経験事例
- b. 患者の食べたい！ を叶える口腔ケア
- c. さらば肺炎！ 誤嚥・窒息予防の取り組み
- d. 臓器移植・高度倫理医療
- e. 虐待を疑う事案の院内制度・対応事例

4 看護師が行う超音波エコー

5 看護教育機関の救急看護教育

＊ ＊発表形式＊ ＊

発表時間：口頭による発表はありません。特定の時間枠を設けます。

発表形式：指定の時間帯に発表者はポスターのそばにお立ち下さい。その時間帯に参集された参加者とディスカッションを行ってください。なお、抄録の登録は必要とします。

抄録構造：抄録構造については、特に制限はございません（査読の際に、査読者より体裁の修正等を入れさせていただく場合はございます）。

参考までに、抄録構造フォーマットとして、以下の2種類を紹介します。

* **パターン1**：通常の抄録構造です。⇒ **I.目的、II.方法、III.結果、IV.考察**。なお、倫理的配慮（倫理委員会の承認、倫理配慮すべき内容の記載、等）が必要な場合は、必ず記載ください。

* **パターン2**：「看護現象の言語化」を記載するための抄録構造です。看護実践報告や事例報告に適しています。⇒ **I.背景、II.事例紹介、III.できごとの記述、IV.できごとの振り返り、V.見出した意味**。なお、倫理的配慮（倫理委員会の承認、倫理配慮すべき内容の記載、等）が必要な場合は、必ず記載ください。「看護現象の言語化」構造は、IMRAD形式にこだわらない看護の知を共有する構造として、兵庫県立大学看護学部の小野博史准教授が考案された構造です。この構造は『看護研究、vol55,No.1、pp.13-14、2022』で紹介されています。また、ご参考までに下記の URL をご参照ください。

特集 第 1 回 理論看護研究会 (Phenomena in Nursing (2021) S19 – S33)

■ 応募に向けて

本学術集会は、より多くの皆様に準備期間を確保いただけるよう、各テーマを早期に公開しております。これを機に、ご自身の臨床経験・実践成果との関連をお考えいただき、ぜひご応募くださいますようお願い申し上げます。

なお、演題登録の際は、内容に応じて「テーマ指定演題（口演）」または従来の「一般演題」のいずれかをお選びいただけます。★「一般演題」希望の方は、こちらの「テーマ指定演題」登録を選択しないように気を付けてください。

多くの皆様からの積極的なご応募をお待ちしております。ともに救急看護実践・救急看護学のさらなる発展に資する議論を深めてまいりましょう。